

# 校長室だより

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/maruyamadai/>

## 「試練はこれから十五の春」

校長 藤 至光

### 社 説 よ り

2日、県内の公立高校の合格者が発表された。今年もまた各高校では念願を果たした晴れやかな顔が輝いたことだろう。と同時に、その陰で無念の唇をかんだ仲間がいたはずだ。少年少女を明と暗に分けた高校入試は多くの中学三年生たちにとって初めてさらされた厳しい社会の寒風だったに違いない。

望みをかなえた人たちには祝福の言葉を贈りたい。一方、力及ばず惜しくも選に漏れた君たちの落胆は察して余りある。が、君たちの価値や人生が決して入試で決定されるものではないことを理解してほしい。

人間の評価は難しい。なぜなら人間にはさまざまな能力や個性があるからだ。入試はこの人間の無数の能力の中のたった一つ、それもごく限られた学力という力だけを比べたものである。人間を測るありとあらゆる物差しの中からたった一つだけを当てて測ったにすぎないのだ

入試で君たちの心の優しさ、豊かな情緒、人間性がわかるはずがない。当たり前のことだが、この結果で人間としての価値を下されたわけではない。

それが理解してもらえらるなら、次の言葉に耳を貸してほしい。合格しなかった君たちは、何もそんなに力を落とすことはない。自らを卑下したり、殊更に自信を喪失したりする必要もない。同時に、合格者も自分のすべてが評価されたかのような錯覚や独断に陥って過信してはならない。

入試、それが選抜であるからには合否はついて回る。しかし、何事も結果だけで判断されるべきではない。努力の過程が貴重なのだ。結果がどのように出ようと、君たちの努力そのものを誇っていい。

どこの高校に入るかが目的ではない。そこで何を学ぶかが最も大切なことだ。合格した君たちは目的地に到達したのではなく、出発点にたったのだ。

ある教育評論家がこんなことを言っていた。英国の親は子供があんまり勉強できると、喜ぶどころか、逆に心配するという。この子が大きくなって悪いことに学力を使わないか、と。

科学技術の発達で文明は進んだ。だが、人間は逆に環境破壊、戦争、飢餓を深刻化させている。人類は格段の知識を得たが、それを使いこなせない。英国の親の心配は人類の心配に

通じる。

やがて高校生活が始まる。もちろん学力をつけることが大事だが、その学力という知識を使いこなせる知恵を身につけてほしい。君たちが得た知識を何のために生かしていくのか、それを考える若者であってほしい。友との交わりや師との触れ合いで人間性を磨き、モノの見方や価値観を育てよう。

最後に、もう十年ほど前の話になるが、高校進学を断念し、社会人となったある女子中学生の言葉を記したい。

「父が病気で入院中、母が働いています。家計のために高校へ進学できなかったけれど、考えようによっては進学するより早く社会に出て、実社会を勉強できます。しっかりとした女性になるため、いろいろな知識を身につけたい。仕事（仕出し屋さん）で料理を覚えれば、忙しい母の代わりもできそう。いずれは調理師免許を取りたい。」

豊かな社会とはいえ、家庭の事情などで高校入試を受けることもなく社会に出ていく少年少女もいるはずだ。そうした仲間を忘れないでほしい。

もう一つ、この言葉の端々からうかがえる人間性を感じ取ってほしい。学校へ行ったり、知識を得たりすることと、人間の価値は必ずしもつながらない。君たちが学校や社会で身につけた知識を生かしても殺してもするものは、入試で測れない人間性であることを忘れないでほしい。

（平成2年 3月3日 神奈川新聞 社説より）

さて、上記の社説を読んで、皆さんはどんなことを感じてくれるのでしょうか。

人間の価値というモノをもう一度考えてもらいたいと思います。

学力があると、あたかも人間としてすべてにおいて優れているような判断をしがちですが、そんなことはないはず。学力以外にも人間にはさまざまな能力が備わっているのです。そして、それは他の人にはない、自分だけしか持ってないモノでもあるはず。

そういう能力を一生かけて磨いていくことが、『生きていく』ということではないかと思えます。社会に出て、人との絆を深めていくためには、やはり人間性が大切なのだと感じます。人は人を信頼してつながっていきます。信頼されるには外見やうわべではなく、やはり人間としての中身が大切なのだと思うのです。地位や肩書きなどにも惑わされず、その人の人間性を見極める力を持ちつつ、自分の人間性にも磨きをかけてほしいです。

そのように考えると学校では、その絆を深めるために、豊かな人間性を育むために日常の学校生活やさまざまな行事を通して、心のなかに“大切なモノ”を創り出そうとしてきたような気がします。君たちはどう思いますか？

1日に公立高校の合格発表があり、希望が叶った者もいたし、希望が叶わなかった者もいましたね。担任の先生たちも複雑な心境で、喜んでいいのか、いけないのか…。それぞれが精一杯の努力をし、「何とか合格を」という気持ちで毎日励んできました。しかし、現実はとても厳しかったということです。でも、大切なのはどこに入ったではなく、そこで何をし、何を見つけるかです。ただ、毎日ボーっとしていても三年間は経ってしまうし、自分の目標や夢・やりたいことを見つけて毎日を充実させても三年間は経ちます。ようするに、つぎの三年間をどのように過ごすかが大切なのです。三年後、道でばったりあったときにどんな姿になっているか、今からそれを楽しみにしたいと思います。